## *第 79 回　いつの時代も社会を守るのは若者*

IT 生

　ロシアによるウクライナ侵攻で、ロシアの戦車隊の進行を食い止めるため、ひとりのウクライナ人の若い工兵が志願し、橋を爆破するために地雷を仕掛けに行った。
地雷を設置したものの、爆破が間に合わないと悟った工兵は、確実に任務を遂行するために自爆の道を選んだ。その結果、ロシアの戦車隊の進行は食い止められたと、ウクライナの国連大使は国連で演説した。

　この話を知るにつけ、１１年前の東日本大震災の記憶が呼び覚まされた。あの大津波のなかを釜石の子供達（小中学生）３000 人は、日ごろの防災教育で学んだ「地震が起きたら即避難」を実践した。その避難の途中、子供たちは大人を巻き込んで避難に駆り立てた。ある小学生は、身体が硬直し動かなくなった父親を引きずるように避難した。別の小学生は、逃げなくていいよ、という祖父母を涙ながらに説得して、避難させた。ある中学生グループは足の不自由な友達をかわるがわる背負って、避難した。

ロシアによるウクライナ侵攻から数日にして数多くの物語が生まれている

　若者の正義感は単刀直入である。このシンプルさが危機に瀕した社会を救う。
「橋を爆破したらロシア軍を食い止められる→間に合わなければロシア軍は進入してくる→爆破が間に合わなければ自爆してでも橋を爆破する」
「地震がくれば津波が来る→津波の被害を避けるには高台への避難が必要だ→地震が起きたから避難する」

　若者の思考回路は極めてシンプルにこう働く。そこには打算も妥協もない。
「これからの時代を背負うのは若者だ」などと大人たちが口先だけで悠長なことを言って惰眠をむさぼっていては、社会は崩壊してしまう。若者には今しかないのだ。本当に若者を守りたければ、大人たちは「若者が育つ豊潤な土壌をはぐくむためにうまく枯れていく」しか役割がないことを悟るべきである。

（令和４年２月）